京都大学附属図書館報

静脩

1965年 1月

Vol. 1, No. 3

The Kyoto University Library Bulletin

随　　想

奥　田　　東

知識を伝える方法は，時代とともに進歩してきた。文字のない時代は，専ら記憶と言葉によって人から人へ知識が伝えられていたが，文字が作られ，印刷技術が発達するにつれて，その伝達はより速く，また広く行われるようになり，その上知識を記録として後世に残すことが可能になった。これは偉大な進歩であって，それが人類の文化の向上に果した功績は測り知れないものがある。

さらに，ラジオ，テレビ，テープレコーダーなどが普及発達してからは，一層広範囲に，しかも速かに伝達されるようになった。とくにテレビでは事象そのものを見せるのであるから，言語の相違という障壁までも取り除いて，世界中のひとびとに伝えることができることになった。

昨年のオリンピックは，人工衛星を使って地球の裏側まで放送したのであるが，10年前には予想もしなかったことで，これ以上の速さと広さは，他の方法では望めない。しかも，事象をそのまま見せるので正確であり，また記録として保存し再放送することも可能なのであるから，伝達方法としては最も優れたものといってよいであろう。

ところで，知識を受けとる側に立ってみると，それを十分に理解し習得したい希望があるので，伝達の方法に対する選択の基準が変ってくるのであって，速さ，広さ，正確さ以外の条件が加わる。たとえば，理解を深めるには質疑応答が必要であるが，それには人から人へという原始的方法にも捨て難い優れた点がある。

また，外国語の本を，辞書を引きながら苦労して読むよりも，訳本で読む方が，楽で速いが，内容をほんとうに理解し自分のものにするのには，かえって苦労して読む方が有効なものである。

近頃は通信教育が発達して，テレビやラジオを使って，家庭で講義を聞くこともできるようになり，また学校でも利用されているようである。使い方によっては良いと思うが，注意しないと，規格化された，独創性の乏しい人間を作ることになる危険があるように思われる。

イギリスの労働党の政策の一つとして，"University of the Air" の設立というのがあった。総選挙前に聞いたのであるが，労働党内閣が成立したのであるから，おそらく実現するであろう。それはテレビを使う一種の通信教育大学であるが，特長としては，各地に指導教官が配置され，学生は週末にその教官を訪問して，質問したり指導を受けることができるようになっていることである。大学教育の受けられなかった勤労者の成人教育としてはおもしろいと思うが，指導教官の素質が問題であり，またその学生が利用できる図書館の整備が必要であろう。

これからも，いろいろの教育方法が工夫されるであろうが，図書館で，あるいは研究室や書斎で，静かに思索しながら，一字一句をかみしめて本を読む楽しみと重要性は，今後も変らないであろう。

（京都大学総長）